



平成24年度弥彦小学校 学校だより No.17 H25.1.10

いきいき弥小っ子

今年度のキーワード「かかわる・かかわり」

今年の誓いは

校長 齋藤 憲



各学年代表の新年の抱負（1月8日始業式）

新年あけましておめでとうございます。平成二十五年が始まりました。今年の干支は巳です。どんな年になるのでしょうか？

約二週間の冬休みが終わり子どもたちは元気な笑顔で登校してきました。年末・年始があり、楽しく有意義な生活を過ごすことができたのではないかと思います。大きな事故やケガの報告もありませんでした。保護者や地域の方々に感謝申し上げます。

子どもたちは新年の抱負「人の話をしっかり聞く」「勉強と頑張る」「あいさつをしっかりとる」「友達を多くつくる」等を、壇上で堂々と発表してくれました。ご家庭でも新年の抱負を確認してみてくださいはいかがでしょうか。

今年も弥彦小学校教育充実のために、ご支援・ご協力をよろしくお願ひします。

新潟日報の「きらきら キラリ」に掲載された弥彦小学校6年生の意見文です。国語の時間に「平和について考える」という単元を学習しました。学習の成果を、自分の考えを明確に伝える「意見文」にまとめました。全児童の意見文を新潟日報に投稿しました。3名の意見文が採用されましたので、学校だよりで紹介します。

「身近な平和」つくりたい

6年2組 (24.11.3掲載)

「戦争をなくす」などの平和活動は、私たち一人一人では難しいと思っている。なぜなら私はまだ小学生だからだ。それは、もっと大人のえらい人たちの仕事なのだろう。でも「身近にある平和」ならつくれるんじゃないかなと思った。身近なら、私にも考えられる。そこで私は「いじめをなくす」ということも「平和」なのでは、と考えた。最近、いじめが原因で自殺というニュースを聞く。平成22年度の小・中学校、高校でのいじめ認知件数は約7万7千件だったそうだ。想像もつかない数だが、日本ではこれだけのいじめが起こっているということだ。これ以外でも認知されないような小さいいじめもあるかもしれない。私は、いじめのある学級は「平和」とはいえないと思う。だが、こんなに件数が多い中、いじめをゼロにするなんてこと、できるわけがないと思う人も大勢いると思う。私もその中の1人だ。でも、ゼロとはいわなくても、少しずつ、いじめをへらして、防いでいくことが大切だと思う。私は、やはり、「いじめをなくす」ということが、「身近な平和」につながると思う。少しずつ、「いじめ」をへらしていけば、少しずつ、「平和」が増えると思う。それを心に留めて生活していきたい。

兵器ない平和な世界願う

6年1組 (24.11.11掲載)

「平和」。ある国では当たり前になっているもの。また、ある国では必死に手に入れようとしているもの。また、ある国では、あきらめているもの。そしてある国では戦って手に入れようとしているもの。今、世界では、平和を手に入れている国より、平和が消えてしまっている国の方が多い。なぜ、こんなことになってしまったのだろう。平和でない国の中には、核兵器を持っている国もある。なぜ核兵器を作るのか、使うのか。それを使うことによって、幸せになる人はいるのか。むしろ、それを使うことによって、不幸になる人の方が多いのではないか。日本にも原子爆弾が落とされた。とてつもない被害で、遺体と対面できない人もいたそうだ。原爆によって、生きる心をなくした人はたくさんいる。原爆によって、何人の心がこわされ、何人の人生が変わっただろう。私は争いごとがキライだ。大きいも小さいもない。争いごとがキライでたまらないのだ。私と同じ考えを持つ人が増え、世界中がその思いでいっぱいになったら、人は自ら兵器を手ばなし、だれかの説得も必要なく、「平和」になるだろう。私はそうなることを願って、生きたい。

平和を思う心いつまでも

6年2組 (24.12.17掲載)

人の心の中で生まれる戦争とは、にくしみ、口げんか、差別などだと思う。にくしみ、口げんか、差別など、このような心が戦争へとつながっていくのではないかと私は思う。世界には、今、この時も戦争をしている国がある。でも、私は戦争というものがどういふものなのかよく分からない。戦争は、本やテレビで見ると、戦争をやったって、大勢の人が亡くなっていくだけで、だれも幸せにはならない。私はこの前、インターネットであるアメリカの小学校であった事件を見た。それは、「小学1年生の子どもが、同級生をうち殺した」という事件だった。また、アメリカでは一般の家にもけん銃があるのはめずらしくないそうだ。しかも、最近では武力紛争に子どもが強制的に巻き込まれることが多くなっていて、このような子どもは約30万人もいるそうだ。そんな子どものころから、人を殺すことを大人たちが教えるなんて、私には信じられない。でも、日本はこういうことがないから、平和だと思った。このことから、私は、私の平和のイメージをもつことができた。戦争は、身近な争いから始まって、大きな争いにつながるから、自分の心の中に平和を守る気持ちをつくり上げていきたい。